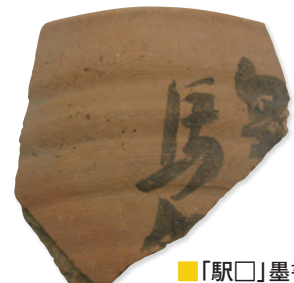


## 出土遺物からわかる交通

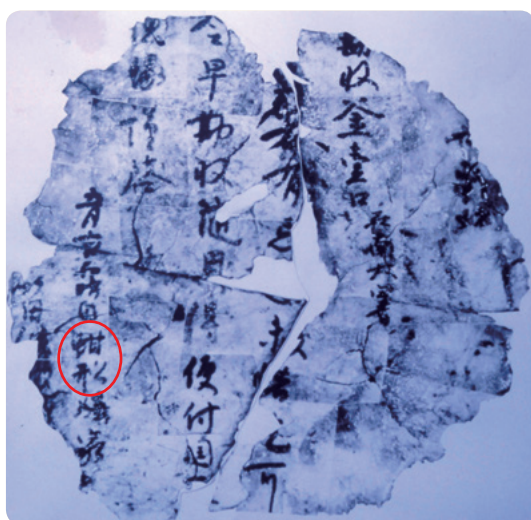
都や他の城柵などに急ぎ連絡が必要な場合や物資を送る際に用いられる官道が整備されていました。道の途中には「駅家」と呼ばれる施設が30里(16km)ごとに設けられ、駅馬の管理や駅馬を乗り継いで来る役人の宿泊場所も兼ねていました。

『続日本記』や『延喜式』の歴史書から、秋田県内には7箇所ほどの駅家があったと考えられます。そのうち、現在のかほ市象潟周辺に「蛸方」という駅家があったことが歴史書に書かれています。秋田城から出土した8世紀後半と考えられる第10号漆紙文書は、「蛸形」駅家から秋田城に出した手紙であることがわかりました。このことから、「蛸方(蛸形)駅家」は奈良時代には確かに存在し、官道が整備されていたことがわかります。



■「驛」墨書土器

また、「秋田」という駅家があったとも歴史書に書かれています。秋田城外郭南門付近から「馳」、「驛□」と書かれた墨書土器が出土していることから、秋田城のすぐそばに「秋田駅家」があった可能性があります。



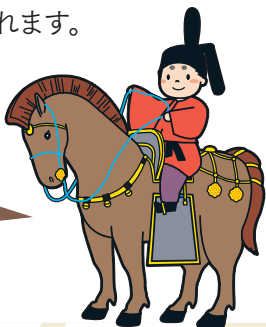
■第10号漆紙文書(赤外線写真)  
左側に「蛸形」と書かれています

## 古代の道路跡

にかほ市の清水尻Ⅱ遺跡は、国道7号線沿いの山と海が近接した地点にあり、秋田城と「蛸方(蛸形)」の駅家の間に位置します。この遺跡から、古代の大規模な整地と道路側溝跡が確認され、平安時代の道路遺構が発見されました。道路の幅は約6mで、全国で発見されている平安時代の官道の道路幅と類似しています。その他、大規模な整地を行っていること、直線的な道路であること、馬具の一部が出土したことなどから、発見された道路遺構は古代の官道であると考えられます。出土した遺物の年代などにより、9世紀代から10世紀後半まで道路が継続して造られていることがわかります。

秋田城から出土した8世紀後半の第10号漆紙文書の中に「蛸形駅家」の名前が出てくることから、奈良時代の8世紀後半頃には清水尻Ⅱ遺跡の周辺に秋田城と「蛸形駅家」を結ぶ官道が既に整備されていたと考えられます。

清水尻Ⅱ遺跡からは馬の歯や骨が道路の下から出土しているよ。馬を道路の路面下に埋める例は平城京や多賀城でも知られていて、大事な道路を造るときのおまじないとして埋めていると考えられるよ。



■清水尻Ⅱ遺跡(南から撮影)  
秋田県教育委員会 2013  
『清水尻Ⅰ遺跡・清水尻Ⅱ遺跡』

## 秋田城跡の各種事業やイベントに関するお問い合わせは

秋田市立秋田城跡歴史資料館

【開館時間】午前9時～午後4時30分

【休館日】年末年始(12月29日～1月3日)

【観覧料】一般…200円、団体(20名以上)…160円

高校生以下無料、年間観覧券…300円

〒011-0907 秋田市寺内焼山9番6号

[TEL] 018-845-1837

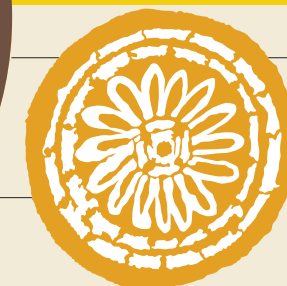
[FAX] 018-845-1318

[E-Mail] ro-edac@city.akita.akita.jp

[URL] <http://www.city.akita.akita.jp/city/ed/ac/default.htm>



# あきまる 秋麻呂くん 通信



平成29年7月28日 秋田城跡歴史資料館

『秋田城』と、みんなの絆をつなぎたいから。

## 古代の道特集



秋麻呂くん

秋麻呂くん通信は、皆さんに秋田城のことをよく知ってもらい、秋田城との絆を深めてもらうための情報誌です。今回は、近年の発掘調査により発見されている秋田城の道路遺構(大路)と、秋田城へ至る古代の道について紹介します。

## 秋田城へ至る道



■出羽国北半部の城柵・道路関係遺跡位置図

(伊藤武士2014「出羽北半の城柵と交通・交流」『第40回古代城柵官衙遺跡検討会-資料集-』p.102を元に作成)

秋田城(出羽柵)は天平5年(733)に高清水岡に造られた城柵で、律令国家の出先機関です。奈良・平安時代の律令国家では、全国に陸路の交通網を整備しました。こうした律令国家が造った道を官道といいます。官道は都と各地の城柵をつなぎ、情報伝達や物資輸送に欠かすことはできないものでした。秋田城は官道の終着点で、交通の要所であり、こうした官道を通して各地との交流があったことが秋田城で出土する遺物などからわかっています。

官道には一定の距離ごとに「駅家」という施設が造られました。城柵から役人が馬を走らせ、途中の駅家で馬を休ませたり乗り継ぐことにより、迅速に移動し情報を伝達していました。そのため官道は直線的に造られる場合が多いようです。



■秋田城跡歴史資料館のジオラマ 道は秋田城内に続いています



## 秋田城のなか —門と大路について—

秋田城は中心施設である政庁を囲む東西94m、南北77mの堀と、秋田城の周囲を囲む約2.2kmの堀(外郭)がありました。政庁と外郭の各々の東西南北に門があり、大路が通っていたと考えられています。

政庁から外郭の門までを城内、門から外は城外であり、城内を通る道を城内大路、外に続く道を城外大路と呼びます。

外郭北門と城内北大路は見つかっていないんだよ。



## 城外西大路 —物資の搬入口—

第92・102次調査(平成20・25年度)に行った調査で重層門(2階部分のある門)と考えられる外郭西門が見つかり、その西側を調査した第106次調査(平成27年度)で、門から延びる城外西大路を発見しました。

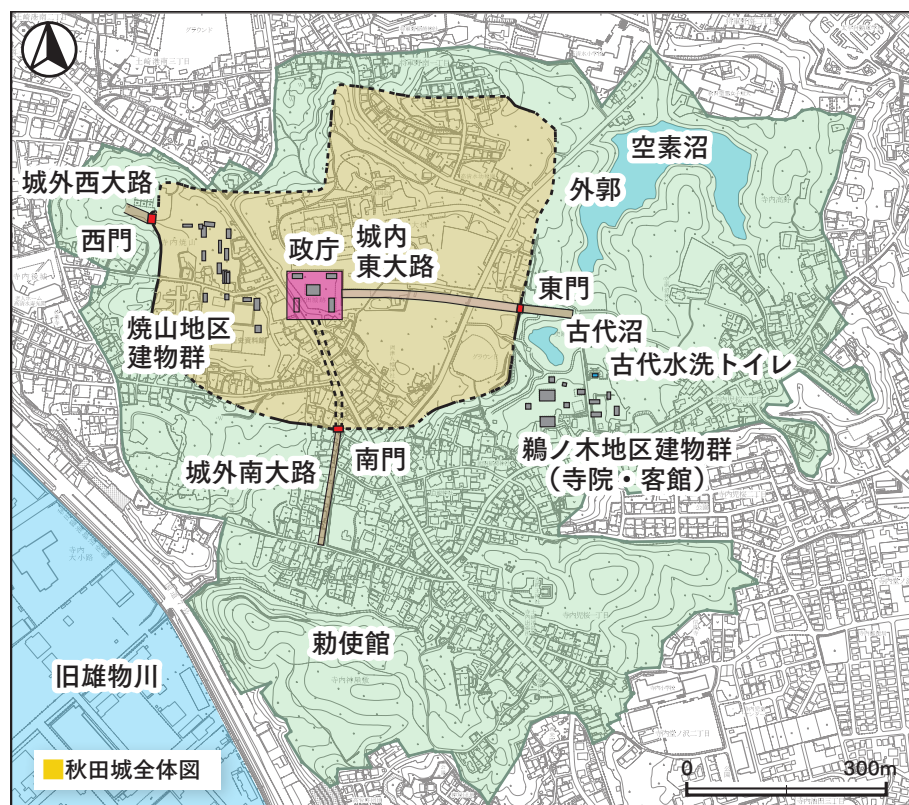
城外西大路は少なくとも2時期の変遷が確認され、奈良時代には約12m、平安時代には約9mの道路幅であり、城内東大路と同じ規格で造られていることがわかりました。

城外西大路は尾根状の地形に沿って北西方向に延び、政庁との位置関係を見ると変則的な配置となっています。これは政庁東側の城内東大路と対照的です。

城外西大路の先には秋田城造営に係わった人々の集落と考えられている後城遺跡があります。また、外郭西門から政庁の間には大規模な倉庫群があったことがわかっています。雄物川の河口部から後城遺跡を通じて運び込まれた物資の搬入を外郭西門から行っていたと考えられ、城外西大路は物資運搬の実用的な道路と考えられます。



■城外西大路検出状況 赤帯の間が平安期道路面(西から撮影)



■秋田城全体図

## 城外南大路 —秋田城の正面入口—

第97次調査(平成22年度)により城外南大路が発見されました。発見された城外南大路は、奈良時代に1時期、平安時代に2時期の変遷がありました。南北大路は奈良時代・平安時代ともに約12mの道路幅であることがわかりました。城外西大路、城内東大路が平安時代になると9m幅の道路に縮小するのは対照的です。これは、古代の都城や役所が南を正面とするためだと考えられます。

第101次調査(平成24年度)で外郭南門が発見され、その平面規模は外郭東門より大きく、秋田城の正門としてふさわしいものと考えられます。こうした立派な門に通じる城外南大路もそれに見合う立派な道路だったと言えます。

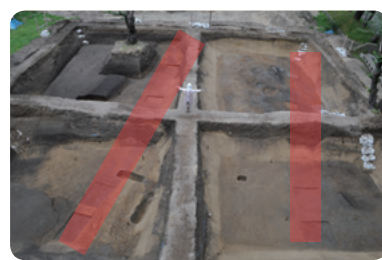
また、周辺では城外南大路を軸として東西に延びる道路が見つかっており、計画的に土地を区画していた様子が見えます。

また、周辺では城外南大路を軸として東西に延びる道路が見つかっており、計画的に土地を区画していた様子が見えます。



■城外南大路検出状況 赤帯の間が平安期道路面(西から撮影)

## 城内東大路 —規格性の高い道路—



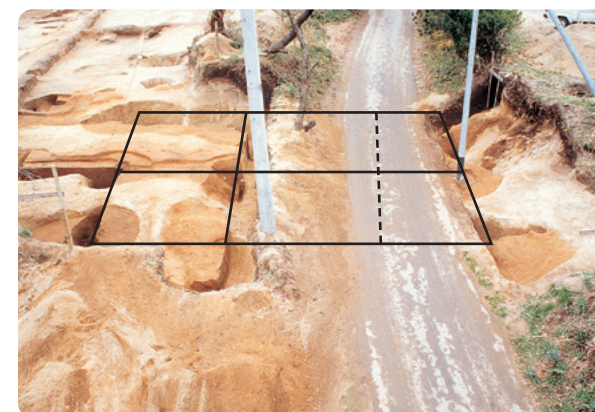
■第107次調査の様子(城内東大路) 赤帯の間が元慶の乱(878)後に復興された道路面(東から撮影)

政庁から東門に至る城内東大路は、第84次(平成16年度)、第88次(平成18年度)、第107次(平成28年度)の調査で道路遺構が発見されています。城内東大路の道路遺構は、残りの良い部分では6時期の変遷があり、政庁を作り替える際に道路も造り直していることがわかりました。城内東大路は、奈良時代には約12m、平安時代には約9mの道路幅であることがわかりました。現在、奈良時代の12m幅の道路を整備しています。

一連の調査により、城内東大路は政庁東門から外郭東門まで、ほぼ一直線の規格性の高い道路であったことがわかりました。これは外郭東門の先にある外交交流施設(古代水洗トイレ・客館等)とをつなぐ重要な道路であったからだと考えられます。



■城内東大路と政庁東門(東から撮影)



■発掘された外郭東門跡と間を通る市道 黒線部分が外郭東門跡(東から撮影)

東門を通る道は整備する前までは市道となっていて、現在も小学生の通学路になっているよ。古代の人と同じ道を歩いていたんだね!



## 城外東大路

外郭東門から外へのびる城外東大路は、道路の側溝が部分的に発見され、直線的に延びていることがわかりました。道路側溝のみの発見であり、道路幅や変遷などの詳細は不明です。

外郭東門の南東部には、まじないなどの祭祀が行われていた古代沼や、外国の使節が使用したと考えられる古代水洗トイレ、寺院・客館などの施設が広がっていました。

城外東大路は、こうした重要な施設につなぐ道路であると考えられます。

東門から古代沼に下りる道もみついているよ。祭祀の場へ続く道なんだね。



■人面墨書土器 SG463沼跡(古代沼)出土 祭祀に使用した道具のひとつ



■外郭東門と大路(門から奥は城外)